

報寺敬覚

2月号



月刊●敬覚寺報

〒177-0032 東京都練馬区谷原6-8-12
TEL 03(3996)1833 大江義宏

▼二〇〇二年二月一日▲

●ポーランド共和国 ヴェリチカ岩塩坑

ポーランドの首都ワルシャワより南約二四〇キロにあるヴェリチカは岩塩の産出地です。十三世紀ごろより本格化した岩塩の採掘はポーランド王国の経済を左右する程の重要なものとなりました。

ここで働く鉱山労働者は坑内の岩塩の壁にレリーフを彫り、時には彫像や祭壇までを作り上げました。地下の博物館とも呼ばれています。

現在でも一部では岩塩の採掘も行われており、採掘技術の発展の歴史も見る事が出来ます。

一九七八年文化遺産に登録されました。

うけつがれるもの うけついでいく心

—— 世界遺産 ——



鉱山労働者は休憩時間などに岩塩を彫り、多くの彫像を彫り上げた。

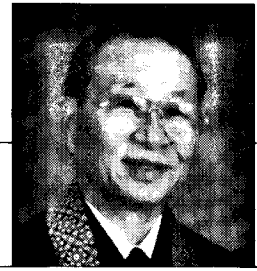


19世紀には坑内に鉄道がしかれた。坑道は地下300mに達する。

ハワイ開教・その感動

ハワイ別院輪番

川路 広美



ハワイでは、毎週の日曜礼拝や、法要等のプログラムの中で讃仏歌をうたいます。浄土真宗の真宗々歌は英語にも訳され、大変良くうたわれている讃仏歌です。真宗々歌の三番には「海の内外のへだてなく、みおやの徳のとうとさを わがはらからにつたえつつ みくにの旅を共にせん」とあります。ですから時々日本語を話す人々と、英語しかわからない人々が、それぞれ日本語と英語で一緒にうたう事もあります。その日英両語同時の合唱がまた理屈を越えてとてもすばらしく、有難く聞こえるのです。

ハワイには日本語を学ぶ人が多いです。ハワイ別院には、元大学教授の竹下博士の日本語クラスがあり、二世、三世の大人の方々が楽しそうに日本語の講義を受けておられます。そして、俳句なども上達しておられます。私はその一人の若い方に、「どうして日本語の勉強を始めたのですか」と聞いた事がありました。すると「私は日本語を勉強して、日本語で親鸞聖人の書かれたものを読んでみたいのです」と答えられました。大変嬉しく、たのもしく、力強い念いにその人を拝みたい気持ちになりました。

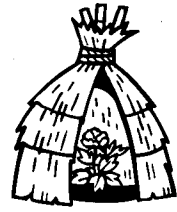
浄土真宗のみ教えには国境はありません。民族を問わず、人種を選ぶ事のない真の自由と平等の教えです。私は今日まで長い間、ハワイの本願寺に参拝されるいろんな方々を歓迎してきました。勿論、その多くは初対面の方々でした。でも一緒に仏前で合掌念仏致しました度に、ずっと以前から知り合っていたような親密さを覚えました。そしてお互いに

めぐり遇えた喜びを語りあつた後の別れには、いつも名残り惜しさを感じる事の連続でした。正しく御同胞御同行の感動そのものであります。ただ見た人や会った人とは大変な相違です。

宗祖親鸞聖人は、現世利益和讃の最後に、「南无阿弥陀仏をとなふれば 十方无量の諸仏は 百重千重圍繞して よろこびまもりたまふなり」と述べておられます。阿弥陀如来様の大慈悲心の中で、念仏のみぞまことであると慶喜された親鸞聖人のお姿が目前に浮かび頭が下がります。親鸞聖人によって開顕された浄土真宗には、伝承があり、論理があり、信仰があり、実践があります。そして、その事は反論できない真実で貫かれています。ごまかしの許されない姿勢です。だからこそ苦悩の業報を生きる私に、時代を越えて救いの道を示し続け給うのであります。

浄土真宗は、自力の善行で迷界を離れる事のできない私が、阿弥陀如来様の他力本願の救済によって証りの浄土に還り、仏果を得させていただく教えであります。そして、その事は一切の人々が一人残らず救済される事を意味します。二月十五日は、お釈迦様入滅の日「涅槃会」で、釈尊の偉大な遺徳が追慕されますが、人間の愛や親切心がいかに虚仮不実であるかに目覚め、還相廻向のはたらきの喜びを味得させていたいただきたいものであります。多くの人種、民族の和合のハワイは、釈尊や親鸞聖人のみ教えと共に歓喜できるすばらしいところであります。

迷信と正信



経子◇こんにちは住職さん。まだ寒い日が続きますね。

住職◇経子さん、立春が過ぎると次第に春近いと思われます。日の照る時間も日一日長くなりますね。

経子◇立春は二月四日でしょう。

住職◇今の暦、太陽暦では二月四日頃が立春ですね。

経子◇では、立春は新しい暦で決まっていますか。

住職◇いや、昔の暦は太陰太陽暦といって、月日は月の満ち欠けで定めますが、季節については太陽の動きで計りました。一年間を二十四等分して、二十四節気というのです。この中に「立春」の日があるのですよ。

経子◇立春の前日が節分ですね。

住職◇いいえ、もとは二十四節気の立春・立夏・立秋・立冬の前日をそれぞれの季節の分かれ目として節分といつたのですよ。

経子◇では節分は一年で四回あるのですね。

住職◇本当はそうです。しかし、二十四節気は立春を最初にしますから、春がくる前日を節分として重んじられてきたのでしようね。

経子◇二十四節気というは何でしょう。

住職◇太陽の動きを年二十四等分するので、約十五日を一節気とするのです。

立春・雨水・啓蟄・春分・清明・穀雨・立夏・小満・芒種・夏至・小暑・大暑・立秋・処暑・白露・秋分・寒露・霜降・立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒と名付けています

経子◇あ、半分ぐらいは聞いたことがあります。

住職◇立春をもとにした季節の呼び方もあります。八十八夜は立春から八十八日目、今の暦で五月二・三日ごろにあたり、二百十日は立春から二百十日目、今の暦では九月一日ごろにあたります。これらは農業にとって大事な日で、種まきや稲の開花などを予測する基準にされました。

経子◇昔の人が暮らしの知恵として数えたのですね。

住職◇そう、季節感や日常生活に密着した大切なものでしたよ。現代でも忘れてほしくありません。

経子◇先月、親鸞聖人は良時吉日

を選ばないとお聞きしたのですが、二十四節気は使わなかったのでしょうか。

住職◇そうではありません。日時や季節を表すことは大事ですが、それで自分の都合の良し悪しを占うことを嫌われたのですよ。浄土真宗は良時や吉日をいいません。因果の道理に反したことは迷信です。正しい道理に基づいた仏教は迷信に惑わされない生き方を教えています。日時や方角などに一喜一憂する鎌倉時代当時の世のありさまを批判されたのが親鸞聖人でありました。

経子◇迷信は自分勝手な思いからでるのですね。

住職◇正信は真実を戴くところにありますよ。親鸞聖人はその著「教行信証」にこう述べられました。

「真なるものは、はなはだもって難く、実なるものはなはだもって希なり」と。真実は迷信からは得られません。

経子◇迷信を離れて、正信に心を持っていきましょう。ありがとうございます。

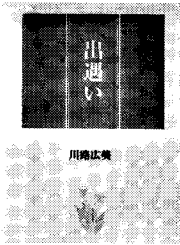
蓮通信

■東京仏教学院生徒募集

・仏教の勉強をしてみませんか。
 築地別院内にある東京仏教学院では本年度の生徒を募集しています。高卒以上で一年間の学習です。講義日は月曜から土曜まで（日、祝は休講）。時間は午後五時三十分より九時まで。定員五十名。
 願書〆切りは三月十六日まで。
 お申し込み、お問い合わせは築地別院へ。
 電話〇三―三五四一―一三二一まで

■川路広美著「出遇い」

・本新聞にお書きいただいておりますハワイ別院輪番の川路先生の新刊が出版されました。鹿児島県を出て、京都で仏教を学び、ハワイでの開教の今までの歩みを感動的に書かれておられます。
 探究社刊 定価一、二〇〇円（税別）
 お申し込みは寺報舎
 電話〇三―三四五一―八八〇八まで（送料別）



お仏具を考える

◆仏飯器◆

仏器（ぶつき）とか、仏飯器（ぶつばんき）とも申します。お米を炊いたご飯を入れる仏具です。仏様に実りの感謝をそなえることから、仏教伝来当時から古いお仏具です。

昨今は、朝はパン食で、ご飯を炊くのは夕食の時のみというご家庭が増えている様に思います。一昔前までは朝は必ずご飯を炊いて、その炊き上がったご飯の一番初め「おはつ」と申しましたが、そのおはつのご飯をまず仏様にお供えしたものでした。お米もパンも植物の命をいただいて、わが身の命に変えさせていただく大切な食べ物に変わりはありません。朝のパンの一切れを仏飯器にお供えするのも良いでしょうし、又、ご飯を炊いた夜の食事の前に、昔と変わらぬ「おはつ」をお仏壇にお供えするのも良いでしょう。

仏飯器には金属で出来たものや、瀬戸物で出来たものがありますが、どの様な素材でも目的は一つです。今日の命の感謝を添えて、一日一度お仏壇にお供えする為のお仏具が仏飯器です。



日常に使う仏教語

■講堂・知事・挨拶

「成人式が講堂で開催されて、県知事が挨拶をしました。」
 この中には三つの仏教からきた言葉があります。

講堂―仏法を講義するお堂からきました。大寺には「七堂伽藍」といい、多くのお堂があり、その中の一つに「講堂」があります。
 先日、奈良の薬師寺講堂が天平時代の姿そのままに再建されたことが報じられていました。

知事―寺院の雑事庶務を担当する役職の名です。五世紀ごろ漢訳經典に「知事」の名が見られます。
 後、唐時代に「州知事」と使われ、日本の現在では、都道府県の最高責任者を知事と呼ぶようになりました。

挨拶―修行僧の一挨拶、切磋琢磨を挨拶といいました。互いにしのぎを削って努力する一門一答の厳しさが「挨拶」の語源です。
 子どもに「ご挨拶しなさい」としつけても、互いの心が通じ合わないのでは挨拶になりませぬね。